

# ～まちの将来像の考え方～

## 検討の過程



## 町の将来像 設定の考え方

### さむかわの町民性

「高座」のころ。

⇒ 穏やかさ、優しさ、あたたかさ

町民の本質

⇒ 心のつながりを大切にしてきた

幸福学（寒川町の町民性）

⇒ つながりを持った人は幸せ

⇒ ひととのゆるやかなつながりが  
多い人ほどやってみよう因子が高い

### 持続可能なまち

20年後の寒川町は大きな変化を迎え、  
様々な課題に直面することが予想される。  
そのため、様々な課題を乗り越える  
ための“原動力”や大きく変わることが  
必要。

課題を解決する方法として「つながる力」、  
そうなった状態（目標）を「新化」という  
町独自のキーワードで表している。

### 町民の望む将来

町民ワークショップにおいて、「つながり」  
に対するコメントが特に多かった。また、  
その他に多かった意見も、つながること  
で達成しうる状態に関する意見が多かった。

町民の望む将来である「つながる」こと  
が強化された状態として、「新化」という  
町独自のキーワードで表している。

## ワークショップで分かったこと

寒川の生き生きと明るい人のつながり 対話するきっかけが欲しい。 音楽にあふれるまちづくり

何となく出てきて居られる場がある 自分らしく生きている人と出会える町 立寄る場所が多いまち

地域やみんなが協力して楽しく過ごせるまち ワークショップのようなイベントが多い町

自然と助け合いが連鎖する場所 誰でもいい場所 新しい人も若い人も入れるコミュニティ

外国から移住した方も含めて多様な交流ができていくまち 世代間、地域を超えた交流の盛んなまち

人がつながるきっかけ  
居場所づくり

お互いを気づかうまち 地域やみんなが協力して楽しく過ごせるまち 人があふれるまち

ご近所で助けあえる（防災体制） 寒川町のいいところ みんなが知り合い挨拶が行きかう町

町民が町民にやさしい町 世代を超えて助け合える町 すでに人のあたたかさを感じている

人のあたたかさを  
感じるまち

自然にふれあえるまち 都会的でなく、癒しになるようなまち 自然あふれる快適なまち

富士山の姿をもっと身近に感じられるまち スーパーなどでも地元の野菜が買えるまち

「高座」のころ。が感じられるようなまち木、花を増やす 緑が多い寒川町

子どもたちが安心して川遊びをできるまち 神社と川を活用したまちづくり

落ち着いたくらしが  
できるまち

チャレンジできるまち 全世代が活動しやすいまち イベントが充実しているまち

町中がいろんな声であふれているまち 思い切り遊べる場所があるさむかわ

様々な遊びができる空間が保持されている 知恵のまちさむかわ（高齢者活用）

にぎわいのある  
まち

町民ワークショップの結果、傾向として「人のつながり」「あたたかさ」、暮らしに関しては「落ち着き」「にぎわい」を求めているということが分かりました。

## 基本構想 2ページ まちの将来像

### 「つながる力で新化するまち」

#### つながる力

- ①心のつながりによる幸せの連鎖
- ②寒川町に集まる多様な「ひと」のつながりによる原動力
- ③つながりから生まれる「モノ・コト」の活用

#### 新化するまち

- ①すべての町民が心豊かな暮らしができるまち
- ②人口減少社会などの時代の変化に対応できるまち
- ③新しい価値の創造に挑戦し続ける魅力的なまち



#### つながる力

町民同士、町民と行政、町内と町外などの様々な「つながり」により、新たな考え方や手法を取り入れ、また生み出しながら地域課題を解決し、まちの活力を生み出していくことを示しています。

#### 新化するまち

つながる力により、チャレンジ精神にあふれ、前向きで成長を実感できる状態を目指すべき理想の状態と考え、様々な社会経済環境の変化の中にあっても、新しく生み出しながら進んでいくことを意味する「新化」を、寒川町独自の言葉として表現しています。